

IV ウスイロコノマチョウの兵庫県での越冬の可能性について

幼虫、蛹の時期は気温の影響を強く受け、16℃を割ると成長は悪い。野外では温度差が激しいためか、神戸市の10月の気温下(平均気温16℃)でも成長出来なかった。幼虫での越冬の可能性はない。野外で11月3日に成虫(♀)が採集されているが10月以前に羽化した個体であろう。

成虫は低温に比較的強く、冬期でも厳しい寒さにも耐えて2カ月以上生存した。しかし休眠することはなく、気温が上昇すると活動した。(12℃で直射日光が当たる状態)冬期の活動で成虫は相当消耗したはずである。

成虫での越冬の可能性を考えた場合、成虫が秋

の活動可能な時間帯に栄養を蓄えることが出来、冬期は気温が極端に低下せず、成虫が活動出来ない程度に温暖な環境が求められる。しかしこのような環境を当地方の自然界に求めることは困難と思われる。人工的な環境下での越冬の可能性は残されているが。

<参考文献>

福田晴夫・浜 栄一ほか(1984) 原色日本蝶類生態図鑑(IV) 保育社

広畑正巳(1982) 兵庫県産蝶類分布資料(2) てんとうむしNo.8:32

永橋嘉之(1992) ウスイロコノマチョウを追って 因幡のむし No.27:7-16

(KONDOH SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

波賀町坂の谷林道で得られた数種の蛾

高島 昭

少し前であるが、1988年8月26日に波賀町坂の谷林道で夜間採集を試みた。このときはヒメオオクワガタが目的であったが、興味深い蛾が数種得られたので報告する。現場は、氷ノ山南方の三ノ丸山南麓で、養父郡大屋町、鳥取県若桜町との境界に近く、標高約1,200mの高原状の地形である。周囲は典型的なブナ-チシマザサ群落である。

1. *Triphaenopsis lucilla* Butler

エゾキシタヨトウ 1♂

県下では他に温泉町ノ山¹⁾、川西市妙見山²⁾で各1例記録がある。

2. *Chasminodes sugii* Kononenko

クロハナギンガ 1♂

関宮町氷ノ山で1954年に採集された記録³⁾がこれまで唯一のものと思われる。

3. *Catocala connexa* Butler

ヨシノキシタバ 1♀

ブナ林に固有な種であるため、この付近一帯に広く生息すると思われる。これまで関宮町氷ノ山(地藏堂付近)⁴⁾に古い記録が1例ある。

4. *Zanclognatha reticulatis* Leech

アミメアツバ 1♂

ブナ林に固有な種で、県下初記録と思われる。

5. *Proteostrenia pica* Wileman

モンキクロエダシヤク 1♂

これまでに兵庫県産の記録がないと思われる。

<参考文献>

1) 谷田昌也(1986) 扇ノ山の蛾類分布資料(1) IRATSUME10:30-37

2) 夏秋優・佐々木昇(1984) 能勢の蛾Ⅲ 妙見山・夏の蛾(1) *C r u d e* 25; 15-22

3) 山本義丸(1955) 氷ノ山の蛾について(第一報) 兵庫生物3(1/2):3-6

4) 山本義丸(1956) 氷ノ山の蛾について(第二報) 兵庫生物3(3):121-123

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)